

虫さされにご注意を！

保健師からの

ちよつこ

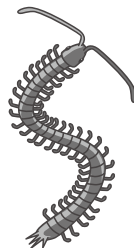
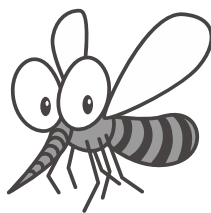
いらはなつ！

担当・大澤

皆さん、夏休みはいかがお過ごしですか？夏は、お祭りや、アウトドアなど楽しいイベントがたくさんあり、外に出る機会も増えます。虫にさされてあら大変、なんてことにならないように対策をお伝えします。

① 虫さされの予防

- ・できるだけ長袖長ズボンを着用する。
- ・汗くさいと蚊がよってくるので、身体を清潔に保つ。
- ・ハチなどは黒色部分を攻撃するので、できるだけ黒い服は着用しない。
- ・虫除けグッズの使用。



② 虫さされの症状

- ・蚊 : さされた直後からかゆみがあり、水ぶくれになることもあります。
- ・ブヨ : さされた時は、ちくちくと痛みがあり、数時間後患部が腫れます。
- ・アブ : さされた瞬間に激痛があり、その後強いかゆみを生じ赤く腫れあがり、熱をもったようになります。
- ・ハチ : 初めてさされた時は痛みや赤い発しんが現れますが、1日以内におさまります。ハチ毒アレルギーの人の場合、2回目にさされるとアレルギー反応より強いショック症状を起こす場合があるので注意が必要です。
- ・イエダニ : 強いかゆみと赤いしごりのあるぶつぶつが出ます。症状は数日でおさまります。
- ・ノミ : 非常に激しいかゆみがあり、水ぶくれができます。
- ・ムカデ : さされた瞬間激痛がはしり、その後赤く腫れあがります。場合によってはショック状態を起こすこともあります。
- ・つつが虫 : さされた瞬間は痛みはなく、さされて1週間以内に39度～40度の高熱を発生し頭痛や筋肉痛、おう吐などを伴うこともあります。また発熱から2日～5日後に不規則な発しんが現れ、さされた部位に1ミリ程度のかいようもできます。

③ さされたときの対応

- ・さされた部分を流水で洗い流す。(毒成分が水で流れ出る。)
- ・さされた部分を冷やす。(血管が収縮して毒成分の広がりを防ぐ。)
- ・適切な医薬品を使用する。
- ・治るまでかかない。

症状が強い場合は、早めに医療機関受診をお勧めします。